縣政だより
発行人 静岡県
発行所 編集人 静岡県知事公室 弘報企画課
印刷所 静岡県営印刷所
毎月一回十五日発行

國際連合を支持しよう

この新聞は回覧してみんなでよみましょう。

縣の總力を結集して 總合開發事業に集中

斎藤県政の新方針發表

（斎藤知事）

斎藤知事は従来の県施策に再検討を加え、今後の任期三ヶ年を貫く三十六ヶ月予算の構想を練っておりましたが、その第一年度ともいうべき二十七年度当初予算編成期に当って、昨年末その新方針を県民皆さんの前に公表しました、その骨子は次の通りです。

待望の平和条約は結ばれたけれど複雑な国際情勢とこれに伴う国内の思想、経済の混乱の嵐の中にあって、自主独立日本の前途は誠に多難であるといえましょう。

そこで県はこの国家的な大試練の年に当って県民の皆さんと共に「郷土静岡県」の生産と福祉を拡充するため、次の二つの方針を樹て県民共同の目標とし、県政一新の大方針を樹てましたが、

その第一は、県民の共同目標を「総合開発」の早期実現においたのであります。即ち

県民一致総力を挙げて、科学的な根拠に立つ総合計画を樹て、公共事業も民間企業もまた文化的事業もすべて密接な連絡を保ち、官民一心同体となってその遂行に努力すれば、そこに産業は興り、県民の経済は豊かになると確心するのです。

時あたかも、国家は国家全体として、この総合開発事業をただ一つの国家再建の途として実施の矢先に当りまして、県の総合開発計画もこれと全く機と所を一にしたのです。またこれは本県の立地条件が総合開発計画の実施に如何に好適であるかということを示すものですから県民の皆さんは自信と勇気を以ってこの計画実現に向って体当りすべきだと確心しています。

第二には、右目標実現のために県政機構の修正、職員の合理的配置、冗員の整理を全般に亘って根本的検討を加え、県政組織を徹底的に実施して、行政の能率化と節約を確立し、県政の建設的体制を整え、その総力を挙げて、重要港湾道路の整備、土地改良事業などの生産的基礎事業に予算を集中することが大切だと考えています。

また、二十七年度予算は従来の追加補正主義を改め、当初に年間予算を計上し年度当初から計画的に事業を実施し、事務の簡易化と事業の断片化を避け、効果の促進を図ります。

このような施策は、独り県当局者だけで実現出来るものではなく、総合開発の果実が実るまで、県民が共同の理想として経済的負担に堪え、思想の混乱を克服して「すべてを総合開発へ」と結集していきたいと思いますので、この大目標を実現出来ると思いますので、この共同目標と県政の刷新には県民各位の御協力と努力を切に希望している次第です。

來年度豫算の重点

以上の趣旨に基いて、昭和二十七年度予算は次の諸項目に重点をおいて編成することになっています。

第一、行財政運営の合理化と吏道の刷新

1、行政事務費の節約と各種補助費等の再検討を行い、経費の効果的配分に重点をおくこと。
2、県の自主的立場で本庁及び出先機関の合理的改革を図り、事務の簡素化と能率化を期すること。
3、職員資質向上の方途を講じ、信賞必罰主義により綱紀を粛正し、吏道の刷新を図ること。

第二、総合開発計画を中心とした生産の基礎条件の改善

1、重要道路港湾の計画的整備を図ること。
2、治山治水対策を強化すること。
3、土地改良事業の促進を図ること。
4、造林未済地の解消と未開発森林資源の積極的利用を図ること。
5、電源開発態勢の強化を図ること。

第三、県民経済力の伸長

1、特産振興と農業の経済的経営への転換を推進すること。
2、県水産業協同組合の育成指導を強化すること。
3、漁場対策の推進と漁業基地の整備を図ること。
4、中小企業対策を積極化すること。
5、工場誘致とその立地条件の整備を図ること。
6、各種産物の内外販路の拡張を図ること。

第四、民生安定並びに労働対策の計画的實施

1、社会福祉事業実施態勢の強化と生活困窮者の転落防止を図ること。
2、国の施策に応ずる戦争犠牲者の援護を行うこと。
3、保健所の計画的整備と結核予防対策の強化を図ること。
4、職業補導並びに労働教育の振興による生産的労働対策の確立を期すること。

第五、文教の刷新向上

1、教育委員会の活動と相俟って特に社会教育、産業教育の振興を図ること。

地方自治を強化するために地方行政委員会議から、政府や衆参両議院に行政事務の再配分に関する勧告（一名、神戸勧告）が行われていることは前号で解説しましたが、この勧告を政府が受入れ、実施に移せば、県や市町村の力が強くなるし（地方分権ー地方自治の強化）、国の仕事、県の仕事、市町村の仕事と、それぞれ仕事の責任がはっきり区別（行政責任の明確化）できて、皆さんの納めている税金が、どのようなサービスとなって表われているのか、それが国の責任で行われているのか、県の責任で行われているのか、また市町村の責任で行われているのかがわかるようになります。このように、市町村の

住みよい郷土建設は まず町村の合併から

神戸勧告の受入態勢を作れ

力が強くなり、仕事の分野がはっきりすれば、皆さんの日常生活に深い関係のある行政事務を、皆さんの意思に基いて、また市町村の責任において皆さんの充分な監督の下に行われるということになり、甚だ望ましいことです。

しかしながら、この行政事務の再配分という仕事も多くの難かしい問題が伴っています。その最も大きな問題は再配分後の行政事務に対する市町村の受入態勢です。

せっ角、地方分権が徹底し、皆さんの満足する豊かな行政事務が行われることになっても、市町村がこれを行うのに適した財政能力のない小規模のものであったら、ただ、いたずらに混乱をまき起し、事務は一層つかえるばかりでなく、住民の負担は寄附金等の名目で増え、かえって怨嗟の的となるばかりでしょう。

政府で設置した地方行政調査委員会議は再配分後の行政事務を能率的に処理できる町村の規模（大きさ）を人口七千乃至八千以上と勧告しています。本県下の町村は果してどうでしょうか、町村数二百七十二のうち人口六千人未満の町村に実に百七十一ヶ町村に及び約六十％強を占めている実情です。県下の小規模町村の多くは、皆さんの納める税金の外に多額の寄附金を徴収しても、なお学制改革以来六ヶ年を迎えた今日、中学校の建営でさへ、完全に行われていない現状ですから、今のまま行政再配分したら町村行政は一層混乱してしまいます。

皆さんの町村はどうですか真剣にお考え下さい。

町村規模の合理化（町村の大きさを適当にする）と一口にいっても、村々には難しい伝統もあり、学校、役場の位置の問題、財産の問題、生活様式の問題など色々の問題があることと思います。

しかし、この問題も小異を捨てて大同につくの寛容さを以て当られるならば、その解決も望まれることと思います。

早く、このことに住民の深い理解の下に合併が行われた町村は昭和二十六年度には十四ヶ町村を数えています。

適当な大さの町村数

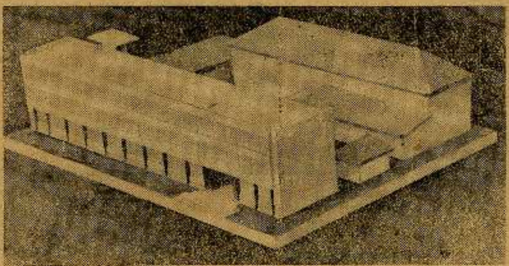
たった二割四分弱

県下二七二ヶ町村を人口の規模別（大きさ）に分析して見ると七千人以上の適格規模町村はたった二四％しかありません。その郡別を示すと次の通りです。（昭和二十五年十月一日現在国勢調査結果による）

	七千以上	五千以上	三千以上	三千未満	計
賀茂郡	二	七	九	五	二三
田方	六	六	八	二	二二
駿東	五	六	五	五	二一
富士	七	六	三	一	一六
庵原	八	三	二	〇	一三
安倍	一	一	五	四	一二
志太	四	二	九	二	二六
榛原	六	六	三	〇	一五
小笠	三	四	一四	一四	三五
周智	一	三	六	二	一二
磐田	四	四	一六	一五	三九
浜名	一四	八	六	二	三〇
引佐	三	二	五	一	一一
計	六四	五五	九〇	五三	二七二
百分比	二四	二〇	三三	一九	一〇〇

県でも、市町村自治の振興を計るため、市町村規模の合理化、市町村行政の充分な審査検討等に付て種々考え施策しています。

皆さんも、皆さんの市町村の行政に充分な関心を寄せられ、その深い理解と協力の下に、住みよい郷土の建設に寄与されるよう切望します。


（新工業試験場の模型）

評判悪い日本品

禍根は古い技術と機械 研究機関を利用しよう

いま、日本で一番大きい問題の一つは経済の自立と安定ですが、これを達成するためには各種産業の増強と輸出の増進が大切ですが、これには、まず第一に鉱工業生産の増進と、その技術を科学化し、近代化して世界水準にまで高めなければなりません。

最近の調査によると世界市場に出されている日本の製品は外国品にくらべて劣等だそうです。これは日本の工業界で使っている機械や器具が旧式で性能が悪くその多くが二十年から三十年も古いからです。そこで通産省で拡大の計画を立てて、日本の工業を近代化する助けとすることになりました。それによると、

一、外国の技術を採用するよう工業界に要請する。
二、主要工業界が採り入れている技術者を海外に派遣する。
三、工業の標準化を図るよう工業界に要請する。
四、研究施設を振興する、

などとなっています。

直接関係の工業家は機械施設の近代化と技術の向上を図らなければ、工業家自体の生命にもかかわるし、東洋の工業国としての繁栄をも望むことは出来なくなりますから、県内は勿論各地に散在するあらゆる研究機関を利用するようにお勧めします。

工業研究機関案内

總合技術の殿堂

県工業試験場を拡充

本県の鉱工業関係の試験研究指導機関としては、浜松市の機械工業試験場が繊維工業を、また吉原市の製紙工業試験場が製紙工業を、また静岡工業試験場が主として木漆竹工業を対象としてその業務を行っていますが、移転新築後の静岡工業試験場の業務の重点は次の通りです。

既設静岡工業試験場の木漆竹工業関係の施設を拡充近代化すると共に、化学工業、機械金属鉱工業関係の他の工業に対する施設を含む総合試験場とし、これに産業技術研究所を併設し、前記の工業試験場並びに静岡県産業技術協会などと密接な協力により、県下の技術陣を動員し、県内関係鉱工業の

一、既存技術の改善指導
二、新技術の導入育成
三、技術者の養成
四、試験研究の指導
五、試験研究施設其の他の開放貸與など技術の改善指導振興上必要な業務を行います。

その組織は総務、工業、工芸の三部とし、各部には
工業部—分析係、材料試験係、研究係
工芸部—木工係、竹工係、漆工係、図案係
をそれぞれ置きます。

建設地は静岡市安倍川町で建物は次の通りです。

1、本館、鉄筋コンクリート三階建、延六五七坪
一階—場長室、事務室、集会室、材料試験室、研究室、電気室
二階—分析室、技術相談室
三階—設計室、印刷写真室、天秤室
2、原型室、作業場、図案室、防火建築二棟、材料実験室、鋳物砂研究室、木工試験室、竹工室、木竹機械加工室、漆工研究室、洋漆研究室、加飾研究室

予算は敷地購入費三六〇万円、工事費本館三、七五〇万円でその他作業場工事費並びに設備費などは昭和二十七年度に決定されます。

産業技術研究所

県産業の技術研究指導振興については鉱工業、農林水産関係の県立試験研究機関が、それぞれの分野で研究指導をしています。また民間の静岡県産業技術協会其の他の団体がそれぞれの分野を受持っていますが、これらを総括統一的に結集して、その総力を発揮させる必要がありますので、講和記念事業の一つとして、静岡工業試験場が総合試験研究機関として拡充強化移転新設されるに当って、これに併設して静岡県産業技術研究所を設けると共に、前記の静岡県産業技術協会の本部を置いて、官民関係機関の協力と県下の関係施設の人的要素を動員し有機的組織的にその総力を発揮させるしくみにすることになっています。

國立研究機関

国立の工業関係各種研究試験機関は次の通りです。

建設省建築研究所　東京都新宿区百人町四ノ三九四
工業技術庁陶磁器試験所　京都市伏見区深草正覚町
同　機械試験所　東京都杉並区住吉町
同　繊維工業試験所　横浜市神奈川区沢渡四
同　電気試験所　東京都千代田区永田町二
東京工大建築材料研究所　東京都目黒区大岡山

この新聞は一日お宅へとめて置いて、御主人はじめ御家族が読まれてから、翌日、早く、お隣へ廻して下さい

なんと十七億圓

縣の仕事に大きな支障

縣税の滞納

県では、県税の徴収状況が思わしくなく、このままでゆくと、やがてはいろいろの事業計画にも重大な支障を来すこととなるので、昨年末から「県税完納促進運動」を展開し、県民の愛郷心にうったえて、急迫した財政の危機を切抜けるために努力を続ける一方、十数億円に達する滞納の一掃を目指して整理に大馬力をかけています。

県歳入総額中の占める県税の比率、県税の滞納状況、「県税完納促進運動」展開以来の県税徴収額等を簡単に示すと次のようになります。

（昭和二六年一二月三一日現在）

1. 県歳入予算総額中に占める県税の比率
 県税額―三二％
2. 県税の滞納状況
 事業税　一三億三、七六八万円
 特別所得税　二、八四六〃
 入場税　一億〇、〇五五〃
 遊興飲食税　一億三、二三六〃
 その他　一億一、七五九〃
 計　一七億一、六四四〃
3. 県税完納促進運動展開以来の徴収額　四億四、五三三〃

まさに県のお台所は赤信号だといえます。

農協再建には協力会を作れ

これが農村振興の鍵

農業協同組合振興運動が活動を開始してからも半年を数えようとしていますが、運動展開以来現在迄に実施された主なものは、モデル組合を中心として振興運動の目標を県下の農民に熟知徹底せしめること、及び再建整備組合が今後五ヶ年間に実施すべき計画樹立の指導でした。

昨年は緊急必要な後者に追われ、前者は中断されたかのように見えましたが、本年は共に軌道にのせるべく、年度末までに次の実施計画が立てられています。

(1)農協振興対策協力委員会設置の督励

現在各支部の状況を見ると、市町村の協力委員会が設置されたものは大割見当とみられ、県としては支部を督励して年度末までに約八割の町村に協力委員会の設置を目標としています。

(2)出資及び貯金の増加並びに系統利用運動の展開

農協を強固なものとし真に農民のための経済団体とするには、組合員の出資及び貯金の増加並びに農家の必需品はすべて農協を通すようにしなければなりません。それがためには(1)に掲げた協力委員会の下部組織である部落協力会を作って農協意識の向上をはかり、系統利用の徹底運動を行います。

再建整備組合でも三月末までに固定資産と欠損金から自己資本を差引いた金額の三分の一の増資達成につとめます。

(3)教育情報関係

各支部主催による職員講習会が開催し、組合経営の向上及び経理組織の確立をはかります。

再建整備組合では理事会、部落懇談会等を開催して増資達成につとめる方針です。

流行性感冒の話

インフルエンザの病原体は、細菌やリケッチャ（発疹チフスの病原体）よりも遥かに小さいヴィールスで、その直径は約一万分の一ミリであるから、電子顕微鏡でなければ覗ることは出来ません。

このヴィールスは患者の口や鼻や呼吸気道系にあり、咳やクシャメ又は談話に際して、ごく小さな放出粒子の形になった唾液とともに口から飛び出し、それを吸い込むと発病するのですが、これを難かしい言葉では飛沫感染といっています。

飛沫となって吸い込まれたヴィールスは、体の中でたちまちふえて血液中に入り、全身を巡ります。そして四十度にも達するような発熱・頭痛・腰痛を訴え、又気道粘膜の分泌が盛んになるので鼻汁や痰（たん）が多く出るようになります。

インフルエンザが一〜三月に多いのは病原のヴィールスが低温で長く生き得ること、冬は密集生活をするので、飛沫感染がおこり易いこと、それに気道粘膜（きどうねんまく）の抵抗力が弱くなっていること等が、その理由とされています。

インフルエンザには別に特効薬はないが、肺炎を併発しなければ、ただ静かに寝ているだけで治癒し、特別の治療は必要ありません。最も恐ろしい肺炎は、一般に病を押して働いた者や、完全に治癒しない中に床を離れ、外出、入浴をした場合に多く起ります。

予防の要は飛沫感染の防止をはかるにあります。

×　×　×

道路愛護運動

―2月10日から―

ぜひ返上したい悪道路の汚名

道路の保全は私達の生活安定えの第一歩であって、道路のないところには産業も文化もあり得ないのです。

県民の皆様の生活の保障はまず経済力の強化であり、経済力の強化には交通機関の整備による産業の開発であることは今更申し上げるまでもありません。ところが、本県の道路はどうでしょう、残念ながらお隣りの愛知や神奈川県の道路に比べて大変劣っているのです。これには、色々の事情もありますが、本年度こそは隣県の水準まで是非引上げるように県も努力しますので、皆さんも今一段の御協力を御願いいたします。

そこでこのたび県と道路利用者会議の主催で例年行っている道路愛護強調運動を二月十日より月末までの二十日間県下一斉に展開して、道路愛護思想普及を始め、県民の皆様の真心を込めた愛護作業や或は「黄羽根」募金運動などを行って県民の力で、県内の道路を良くするための一大運動を起すことになりました。道路は皆さんのものです。今年も皆さんの御協力によって、その成果を挙げたいと思います。

懸賞 縣民のお智慧拝借

正解者に記念品進呈

前号から、この県政だよりをよく読んで頂くために「お智慧拝借」と題して懸賞募集を開始しましたが、予想以上の好評を博しましたので今後も引続き募集致しますからどしどし応募して下さい。正解者には記念品として、県名入りの美しいシャープペンシル一本ずつを差上げます。但し正解者が十名を越えた場合には、抽せんによって記念品贈呈者十名を定めます。

問題は全部この県政だよりの中に折込まれていますから、よく読んで頂けば、どなたにでもできるはずです。

【問題】

1、斎藤知事は新年度の予算編成に当って、県民共同の目標を定めましたが、その第一は、どんなことでしょう。

2、神戸勧告が自治強化を図るために適正だ（ちょうどよい）とする町村規模（町村の大きさ）は人口数で、どのくらいでしょうか（適正人口数だけ書いて下さい。）

3、県税の滞納額は昭和二十六年十二月末日でどのくらいでしょうか（滞納金額だけ書いて下さい。単位万円）

【應募規程】

1、官製はがき使用のこと
2、はじめに「お智慧拝借」懸賞応募と明記すること
3、応募〆切日、昭和二十七年二月末日（日付消印あれば有効）
4、あて先、静岡市追手町静岡県庁弘報企画課「県政だより係」
5、発表、昭和二十七年三月十五日号（第四十四号）県政だより紙上

凶作を救った農業共済保険

年末の支払三億餘円

昨年の稲作災害が県下の農家経済に興えた影響は予想以上に深刻なものがありました。県でも直ちにこれが被害対策協議会を開催し、供米割当量の軽減陳情をはじめ多くの災害対策を樹立したことは、既に皆さん御承知の通りです。中でも、当初より時に強く叫ばれた「農業共済保険の年内支払」が県主脳部をはじめ関係者の努力によって実現したという事、職員の殉職（小笠郡曽我村）があった事を特に皆さんにお知らせしたいと思います。

この大災を蒙った稲作に対する支払共済金については、一日も早く農家の皆さんに支払をしようと農林省とに再三にわたる折衝の結果、漸く政府は十二月十三日本県の支払共済金を総額三億三千七百六拾五万七千七百六円（被害農家一戸平均三千余円）と決定したのです。この間農林省でも、また県及び連合会でもあらゆる努力を払って被害の実態把握について、また正確な数字をつかむに要した労苦は並々ならぬものがありました。

そこで県は直ちに共済連合会をして、この金額を農林中央金庫及び県信連より一時融資を受けしめ、且つこれに要する利子補給を行ったのです。そしてこれが支払は暮の二十五日より実に三十一日の深更に及び全職員は年末休暇を返上して被害農家に対して支払を行い、辛じて年内支払というスローガンの完遂が実現されたのでした。

春木の植つけ準備は

まず、じごしらえを

春が、やってきます。暖かい地方では二月頃から植林が始まりますが、皆さんその植付準備はできたでしょうか。

第一に大切な準備としては植付予定地に生えている雑草や、潅木、伐り残されている細い木や枝をとりかたずけて、植林しやすいように、また植付けた苗木がよく生育するようにするための地ごしらえをします。

地ごしらえは、その土地の状態、樹種によって全面地ごしらえ、条地ごしらえ、坪地ごしらえ等それぞれ適当な方法を行います。これ地ごしらえと共に苗木の準備をしなくてはなりません。苗木は、その土地の土質や気候風土に適した優良な樹種を選ぶことが大切で安全であり、また成績もよく、その上成長が早くて将来木材の利用価値が高く経済的にも利益です。では植付の本数は樹の種類、場所用途によって一概にいえませんが、大体本県では一町歩当りスギ、ヒノキなど二千五百本から三千本、アカマツ、クロマツは三千本から四千本、クヌギは三千本位が適当です。

このようにして、植付ける樹種を定め、どのくらいの苗木が必要かを計画して県庁の林政課や支庁、地方事務所の林業課または森林組合、種苗組合などに相談して下さい。

なお、この寒い冬を利用して、土壌中の害虫、殊に根切虫を凍死させ土質を良くする為に、休閑地を深く掘り起し寒気に曝しておくことも大切な準備の一つです。

作文募集

農協振興について

県では農協を振興させるために対策本部を作り、色々の運動を行っておりますが、今度小中学校生徒の胸の中に農協精神を刻みつけ、次の代に村を立派に築き上げる担い手を養成し、併せて現在の農協をよりよいものにするため、農協振興に関する作文を左記規定により募集することになりましたから奮って応募して下さい。

募集規定

私達がどう協力したら組合をよくする事が出来るかという事を作文にとり入れる。

詳細は地方事務所経済課（支庁経済課）及び小中学校にお問い合せ下さい。

濱松葵地區開拓村　上　開拓当時の稔らぬ酸性土壌　下　土地改良に成功した水田風景

開拓地訪ねて

辛苦の六ケ年

いまぞみのる汗の結晶

【戦】後に初められた開拓農業は、終戦とともに急にふえた人口の食糧自給と失業救済の対策として、はじめられたのであったが、入植当初は土があるといっても、未墾、荒果てた原野か旧軍用地（演習場、飛行場跡）で直ぐには生活の基礎も築かれなかった、しかし将来に向っての営農の資源たる田畑の開墾をするにもまず、先だつものは生活と食糧問題の解決であった。働かんための原動力である食物には芋のツルを附近の農家に貰い歩き、或いは蛋白質の補給にザリ蟹や蛙を、そしてヒマシ油の天ぷらまでが食卓にのせられたことも開拓地では当り前の日常であった―そのことは、いまになっては考えられない事実であったが、最近南方海域での生存者（アナタハン島の生還者）が語るあの言葉には胸に疼く古傷の如く痛々しく感ずるものがある。

【今】県下に大小一〇〇余地区にわたる開拓地が点在、三六二戸入植者をもつ西富士地区（富士郡上井出、白糸両村一帯）三七八戸の浜松葵地区（浜松市郊外旧陸軍飛行場跡）五六八戸の三方原地区（浜名郡三方原村旧陸軍爆撃演習場跡）を筆頭に殆んど全郡に散在している。本県の地形が山岳高冷地から平地、海岸地帯の高低と気温の差は県民読者の御承知の通りで、一千米の高冷開拓地から伊豆南端の温暖地区に、あらゆる分布が六年の足跡は開墾苦斗時代から経営時代へと躍進しつつある。その成果を今、浜松開拓農業協同組合を訪れて発展への道すがらを訊ねて見たのが、このレポートである。

【濱】松市の高台、旧飛行聯隊跡の門柱が、厳めしく、かつての軍国時代の面影を残して御姫街道に沿って建っている。門を入ると「夏草やつわもの共……」の感一入そそる衛兵詰所、将校集会所の建築物が立ち並び、行く手に格納庫の残骸が淋しく雨ざらしとなっている。そこから見渡す広野といいたいところは一団の開拓地で、見はるかす彼方にまで開拓住宅が立ち並び、水田、風車が整然と幹線道路に沿って区画されている風景は特に「新しい村づくり」開拓の姿であろう。

【こ】の土地は、新墾地がどこでもそうであるそれ以上に、天下に名高い強酸性土壌で、入植当初の昭和二十一年、二十二年ごろは麦を播いても筆の穂先ぐらいまではなるが、それ以上にならず、玉ねぎも芽が出たと思うと、間もなく種子も消えてしまうといったことが繰り返えされ、牧歌への夢も脆く消え去って仕舞い、幾度となく淋しさを味わい、食うに米も麦もなく芋蔓、雑草の類まで糧となったのであった。この地区に続く三方原台地の街道は土壌の改良に浜松市内から荷車、牛馬車でダスト（塵埃）を朝早くより取りに行くワダチの音がひっきりなしに続いている。

【三】、七八〇町歩の総面積は、一戸当り一〇町歩の開墾と土壌改良は国家投資の融資金、田費、県費補助金などの土壌改良と営農促進助成があり、地下水の電力揚水に補う風力（風車）利用などで畑地灌漑から水田化がなり二五〇町歩の水稲は見事に收穫をなし得たのであった。

【戦】災、転業、引揚者が明朗団結の一団となった努力は美事にみのり、農事の経験に乏しかった開拓者は畑地農業に家畜導入の新経営方式を生み更に肥料投下と科学農業の計画策は緊急開拓五ヶ年の目標に向っての敢斗に着々進み早くも自立の兆が明かとなって来ている。今この地区は農林省指定の種豚飼育基地として優良豚の生産に拍車を注いでいる。開拓は十年の計であり、今年は六年目である。十年の歳月を経ずして開拓の批判は無暴であろう。いま開拓者は十年の批判期に向って最後の後半五ヶ年の仕上と成果の昂揚に向ってひたすら努力の鉄鎚を振っている。

（社団法人静岡県開拓協会弘報部藤崎主事記）

×　×　×　×　×　×　×